

コロナ禍乗り越え379人巣立つ

5年ぶり一堂に会し 初の学外開催

令和5年度の卒業式・修了式が15日（金）、熊本市中央区のシアーズホーム夢ホール（市民会館）であり、学部生、大学院生など計379人が思い出を胸に学び舎を後にしました。卒業式・修了式が学外で開催されるのは初。新型コロナウイルス感染対策のため、前年度まで中止あるいは学科・専攻別での開催が続いており、5年ぶりに卒業生、修了生が一堂に会した式典となりました。（NL編集部）

令和5年度卒業式・修了式



竹屋学長から学位記を受け取る山口桃茄さん（リハビリテーション学科生活機能療法学専攻）。山口さんは答辞も述べました

竹屋元裕学長が壇上に立ち、学科・専攻、大学院、助産別科、認定看護師教育課程の各代表者に学位記・修了証書を授与。成績最優秀者などの表彰を行いました。竹屋学長は式辞の中でコロナ禍に翻弄された4年を振り返り「決して思い描いたような学園生活ではなかったかもしれないが、この貴重な経験は皆さんの医療人としての将来にとって、かけがえのない財産となるはず」とした上で、「社会の変化を的確に捉え、それぞれの課題を見据えながら、未来志向型の医療人として着実に歩みを進めて欲しい」とエールを送りました。

在学生を代表して内田拓斗さん（リハビリテーション学科理学療法学専攻2年）が「先輩方を目標とし、築いてこられた伝統を受け継ぐため、悔いのないよう、より一層精進してまいります」と

送辞。それに応え、山口桃茄さん（同生活機能療法学専攻）が「一生ものの学びと出会いが得られた4年間の学生生活」を振り返り、「熊本保健科学大学の卒業生であることに誇りを持ち、この4年間で得た知識・技術を元に、広く日本の社会に、そして世界に貢献していきます」と答辞を述べました。

袴着やスーツに身を包んだ卒業生・修了生が式典に花を添え、会場周辺では開会前から恩師や友人、家族たちと笑顔で歓談したり記念撮影したりする姿があちこちで見られました。

また、同日夕にはメルパルク熊本（中央区）で、卒業生主催の卒業記念パーティーも開かれました。



↑ 初の学外開催となった卒業式・修了式で、式辞を述べる竹屋学長

↓ 声を合わせ学園歌を斉唱する卒業生と修了生たち。2階席からは家族が見守っていました



晴れやかにはじける笑顔

卒業式・修了式点描



卒業式・修了式 被表彰者

令和5年度卒業式・修了式での被表彰者は次の通り。(敬称略)

◇総合成績最優秀者賞 中村美和(医学検査学科)、池田奈穂(看護学科)、矢加部未来(リハビリテーション学科理学療法学専攻)、山邊若奈(同生活機能療法学専攻)、田中雅(同言語聴覚学専攻)、井上桃奈(助産別科)

◇GPA賞 中村美和、永冨萌絵、片平帆風(以上医学検査学科)、池田奈穂、山下美音、清水結友、守永有杏、坂下麻依、立山ひより、富田栞、境紅葉(以上看護学科)、矢加部未来、上村太亮、齊藤稜平、瀬藤璃音(以上リハビリテーション学科理学療法学専攻)、山邊若奈、遠山力哉、早野真菜、山口桃茄、下田咲良、田上満菜、増永幸輝、新名隆平、清水大輝、男武蒼(以上同生活機能療法学専攻)、吉永董子、中川美月、北島栞、田中雅、清家佳歩、室屋駿、田川未呼、糸山千尋(以上同言語聴覚学専攻)

◇優秀論文賞(大学院) 荒尾ほほみ、楠田賢斗

◇酒匂賞 松山直央(リハビリテーション学科理学療法学専攻)

◇学部長表彰(学術賞) 飯伏SG卒業研究班 添島萌華、大谷里緒、奥野冴乃、工藤理紗、合志彩名、高濱美乃里、徳田蒼泉、本郷早紀(以上医学検査学科)

あんパン甘いか、しょっぱいか

春は別れの季節。アカデミックスキル支援センターでも、外部指導員の佐藤文子さん、学生指導員の中山慶亮さん(医学検査学科)がセンターを「卒業」します。写真は、12日(火)に後輩指導員たちが開いた「お別れスポーツ大会」の一角。パン食い競争や車いすバスケットなど多彩な企画で2人を送り出しました。くわえたあんパンはちょっぴりしょっぱい味がした?

(アカデミックスキル支援センター)

今週の1枚



手を携え人材育成目指す

本学と水俣市、国保水俣市立総合医療センター、水俣高校が、地域の保健・医療・福祉の向上と人材育成に関する包括連携協定を18日（月）、締結しました。今後、各団体による同校への出前講義やインターンシップの受け入れ、研修受け入れの検討などを行っていきます。

水俣市役所で行われた締結式には、同市から高岡利治市長ら4人、国保水俣市立総合医療センターから同病院事業管理者の坂本不出夫氏ら4人、水俣高校からは菅浩校長ら3人、本学からは木下統晴理事長、竹屋元裕学長ら関係者5人が出席。高岡市長、坂本事業管理者、菅校長、木下理事長が協定書に署名しました。

引き続きあいさつに立った高岡市長は、保健・医療人材が不足している現状に触れ、地元唯一の高校である水俣高校の生徒たちへの期待を口にしました。

坂本事業管理者は、高校生への出前講義やインターンシップ、本学学生たちへの看護学生奨学金制度についても言及。木下理事長は「4者での包括連携協定は全国でもまれ」と話し、協定継続の重要性を強調しました。また、菅校長は、同校で医療職を希望する生徒たちに「医療人材不足の解決を期待する」と述べました。

締結式に参加した水俣高校の川口花凜さん（2年）は、「この取り組みを通して地域を学んで（医療職の）資格を取り、地域医療に貢献したい」。野球部に所属し理学療法士を目指している木村颯心さん（同）は「4年制大学に進学し、専門知識や技術を学び、地域の方とコミュニケーションを取りながら、幼児から高齢者まで治療していきたい」と、夢を語っていました。（入試・広報課）



写真左は、協定締結後、記念撮影する関係者。同右は協定書に署名する、右から坂本病院事業管理者、高岡市長、菅校長、木下理事長

岡教授（看護学科）に表彰状伝達 公衆衛生事業厚労大臣表彰

看護学科の岡順子教授が令和5年度公衆衛生事業厚生労働大臣表彰を受け、5日（火）、熊本県庁本館で伝達式がありました。

岡教授は県庁へ入庁後、保健師として県下初のフッ化物を応用した歯科保健の推進など、様々な先駆的取り組みを实践。県民の疾病予防や保健指導に取り組み、特定健診・保健指導や医療提供体制づくりに大きく貢献しました。

伝達式で、岡教授は先駆的な取り組みをさせてもらったことに感謝の言葉を述べるとともに、令和7年度開設準備中の本学保健師専攻科にも触れ、「今後もこれまでの経験を踏まえた保健師教育に従事します」とあいさつしました。（入試・広報課）



県庁で表彰状を受け取る岡教授

ランナーの異常見逃さない！

熊本城マラソンでボランティアAED隊

BLS部は、2月18日（日）に開かれた「熊本城マラソン2024」にボランティアAED隊として参加しました。モバイルAED隊ということで、医師、看護師、救急救命士のいずれか1人と学生2人の計3人でグループを編成。自転車でそれぞれの担当エリアに分かれ、移動しながらランナーや観客に「こまめに水分補給をしてください」と声を掛けたり、体調不良者や傷病者に対応しました。

今年は気温が高かったため、熱中症の疑いや脱水によって足をつる方が多かったです。私たちはそのような方々に接触して、自力で歩けるようであれば救護室へ行くよう促したほか、OSIなど水分補給をとってもらう、足を伸ばしてその場でできるストレッチを促すなどの処置を行いました。また、過呼吸で倒れた人に対しては保温をし、呼吸がしやすくなるように体をしめつけているものを外す、靴を脱がすなどの処置を施しました。また、車椅子への移乗移送の援助を行ったメンバーもい

ました。

これまでの活動で実際の現場に立ち会う機会はあまりなかったため、多くの学びを得られ、また日頃のサークル活動や学校の授業内容などをみんな活かして取り組むことができたと思います。



モバイルAED隊のメンバーたち

西里校区健康ウォーキング

看護学科生が参加者の血圧測定

第5回西里校区健康ウォーキングが3日（日）、開催されました。本学アリーナをスタートし寂心公園を目指すがんばるコース（約6.2㌔）とセブン・イレブン下硯川店から折り返すのんびりコース（3.0㌔）に約100人が参加し、それぞれのペースでウォーキングを楽しみました。コース途中では、周辺地域にまつわるクイズコーナーも設けられ、正解者には抽選で賞品が贈られました。ウォーキング実施前と実施後には、看護学科の岡順子教授、戸渡洋子准教授の指導の下、看護学科の学生19人が参加者の血圧を測定。リハビリテーション学科生活機能療法学専攻の吉田真理子准教授が健康体操を手ほどきしました。天候にも恵まれ、気持ちの良いウォーキング日和となりました。

（地域連携委員会）



参加者の血圧を測定する看護学科の学生たち

銀杏アラカルト

■駐車場の事故に気を付けて
「安全運転講習会」が2月22日（木）、1300L講義室であり、損保ジャパン熊本支店の葉迫伸也支店長代理＝写真＝が教職員80人を前に駐車場の事故や道路交通法改正について講習を行いました。葉迫氏は、駐車場内は一般道路と違い走行速度が遅いことなどから、ドライバーが危険要因は少ないと思

込み事故を招くと解説。歩行者の飛び出しや死角も多いので、「十分な安全確認や徐行運転が大切」と話しました。また、昨年の法改正で話題となった免許なしで運転可能な電動キックボードの注意点や、ヘルメット着用の重要性なども併せて周知しました。

（衛生委員会）





◇飯伏 義弘教授（医学検査学科）

4年間お世話になりました。思い起こせば着任と同時にコロナ禍になり、突然のオンライン授業になりました。熊保大の教職員の方々は、本当にやさしくいろいろ相談に乗っていただき、どうにか退職することが出来ました。本当に楽しい4年間でした。今後の熊本保健科学大学の益々の発展を祈念いたします。



◇松本 珠美准教授（医学検査学科）

この3月で、39年間お世話になりました银杏学園を退職することにしました。银杏短大を卒業後、すぐに助手として入職し、熊本保健科学大学に移行した後も皆様のお力を借りながら、なんとか務めることができました。本当にお世話になりました。ありがとうございました。



◇吉田 真理子准教授（リハビリテーション学科生活機能療法学専攻）

約15年前に特任として週2日の勤務を始め、その後常勤となりました。熊本地震、コロナ感染拡大や専攻の新カリキュラム対応と、大変なことも多かったのですが、周りの方々の助けを借りることで、楽しい思い出も作る事ができました。他学科他専攻、事務の皆様にも大変お世話になりました。ありがとうございました。



◇馴松 朋子臨時教員（看護学科）

臨時教員としては1年半という短い期間でしたが、学生とともに学ばせていただきました。29年間の県の保健師生活を終えた後、いくつかの職場を経験しましたが、本学の学生は皆、真面目で熱心で、先生方の教育の賜物だと思えます。若い人達の感性（ファッションも含めて）に触れ元気をもらいました。ありがとうございました。※5月1日より同学科臨地実習助手として勤務。



◇森 友子さん（教学支援課 共通教育センター）

2007年に入職し、いつの間にか17年も経ってしまいました。毎年、新たな課題があり、ずっと走り続けてきたような気がします。共通教育センターの先生方には長きにわたり本当にお世話になりました。どんなに感謝してもしきれません。また教学支援課のメンバーと励まし合えたことも良き思い出です。



◇有田 健二さん（総務課）

「あなたが目指す介護看護職は社会にとって尊い存在だよ」と実習送迎中に言葉をかけたことも。とかく自分よがりの時勢に他人へ愛情を注げる人がどれだけいるだろうか。その思いで学園バスのハンドルを握り安全運行に努めてきました。私は実習生を送迎できた事を誇りに思う。65歳で去りますが、熊保大に勤務できて幸せでした。

※その他の退職者は次の通りです。

南部雅美教授（医学検査学科）、原口真由美助教（看護学科）、前田起代子さん（総務課）、永良裕子さん（経理課）、佐藤文子さん（アカデミックスキル支援センター）

インフォメーション

週間行事予定（3月26日～4月8日）

3 / 29 (金)	辞令交付式
4 / 1 (月)	辞令交付式
4 / 2 (火)	入学式（熊本市民会館）
4 / 3 (水)	新入生・在学生オリエンテーション（～8日）